

園名：中央区立晴海幼稚園

所在地：東京都中央区晴海 1-4-1

園長名：上竹 陽子

園児数：128名

学級数：7学級

教員数：14人

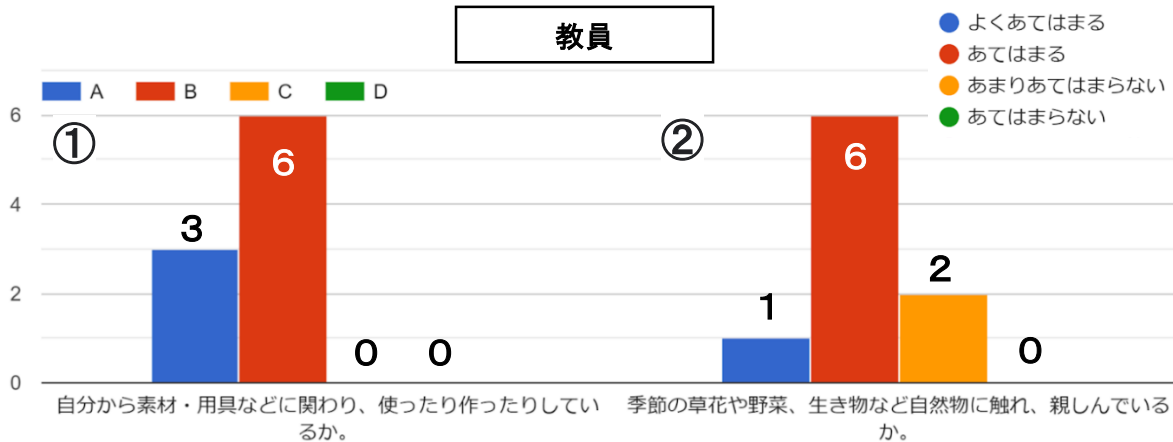
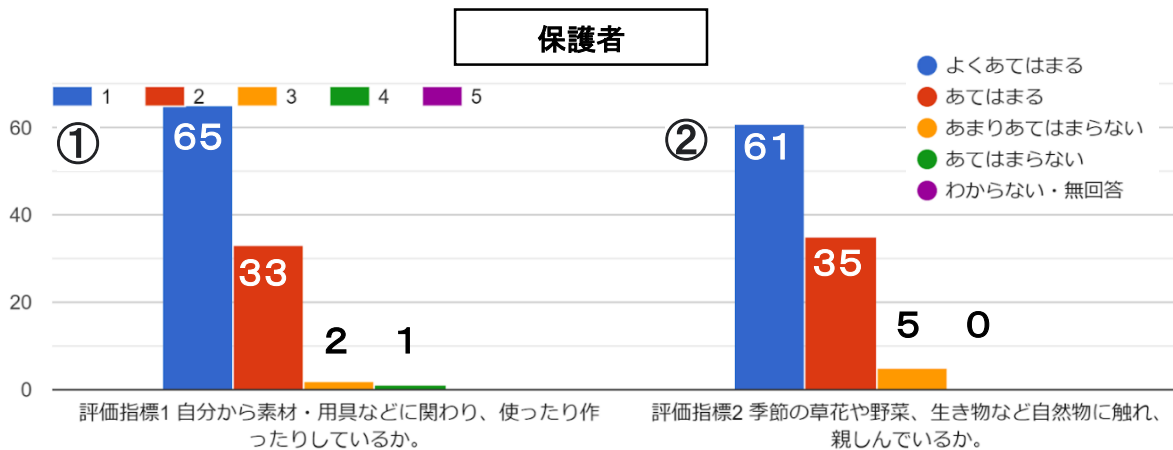
職員数：16人

1 重点目標の達成状況及び取組状況

重点目標1 夢中になって生活や遊びに向かう幼児の育成

評価指標①自分から素材・遊具などに関わり、使ったり作ったりしているか。

評価指標②季節の草花や野菜、生き物など自然物に触れ、親しんでいるか。



①②ともに「1よくあてはまる」「2あてはまる」を合わせた割合が9割以上を占めている。

学年の発達に応じて、身近な環境に関わって遊ぶことを楽しんだり、自然物に親しんだりすることを通して、夢中になって遊ぶことができていると保護者に実感していただけたと考える。

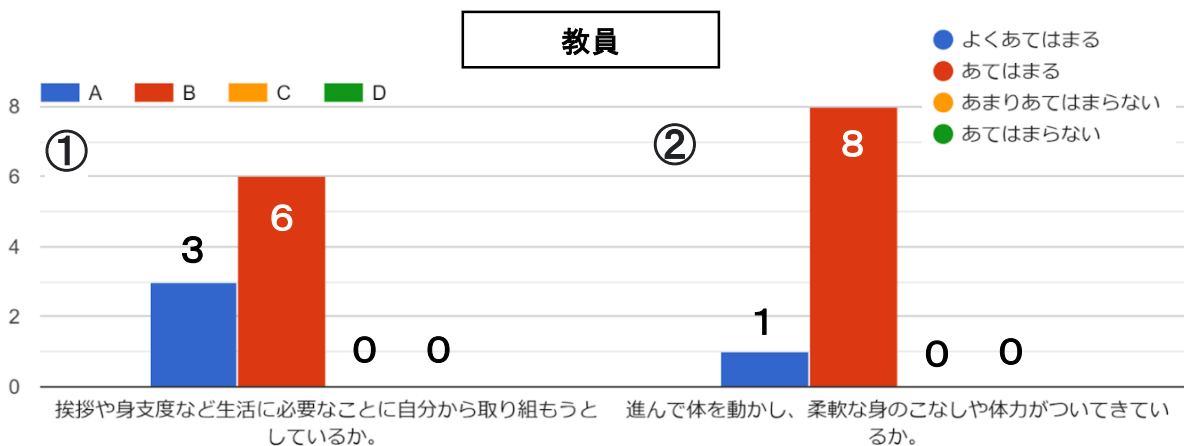
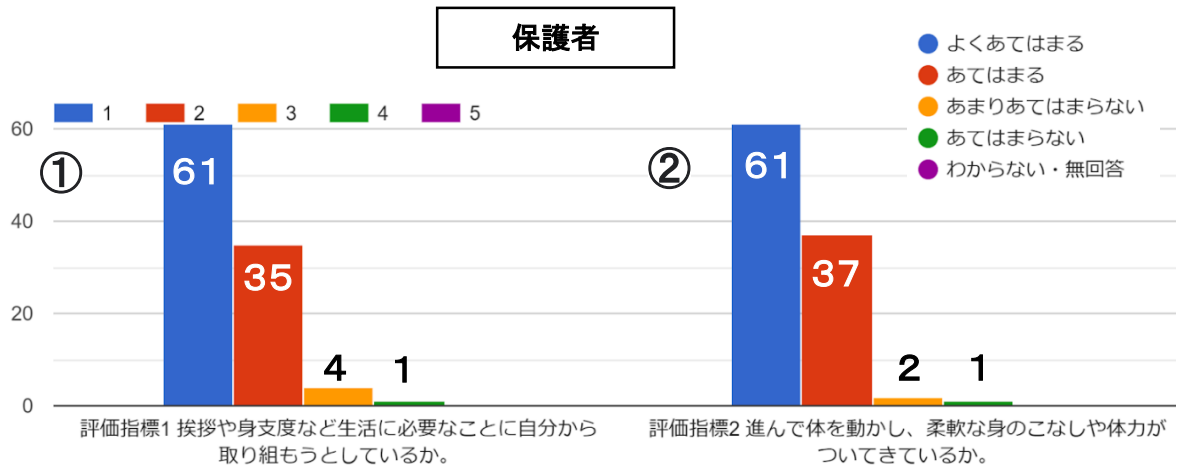
教員の評価で、「あまりあてはまらない」が見られる。栽培物がうまく育たず、栽培活動を十分に経験することができなかったことが、一つの要因である。必要に応じて、関係機関と連携し、改善を図っていく。

今後はさらなる幼児理解に努め、個々の興味関心にそった遊びが展開できるよう、指導力向上を図る。また、季節に応じた飼育栽培活動を展開し、幼児が親しめるよう、教員自身が飼育栽培活動に興味をもって調べたり環境を工夫したりし、その姿を幼児にも示していけるようにする。

重点目標2 心身共に健康な幼児の育成

評価指標①挨拶や身支度など生活に必要なことに自分から取り組もうとしているか。

評価指標②進んで体を動かし、柔軟な身のこなしや体力がついてきているか。



①②ともに「1よくあてはまる」「2あてはまる」を合わせた割合が9割以上を占めている。

生活面については、「身の回りのことを自分から行うことが増え、幼稚園で教えてもらったことが身に付いている」という意見を複数いただいております。生活に必要なことに気づき、自分で行おうとする気持ちや力が身に付いてきていると保護者に実感していただけたと考える。

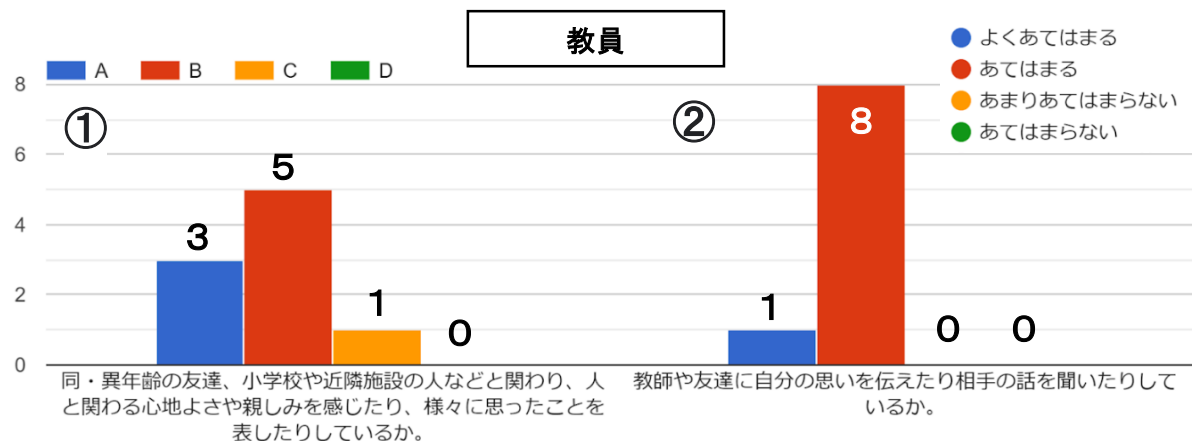
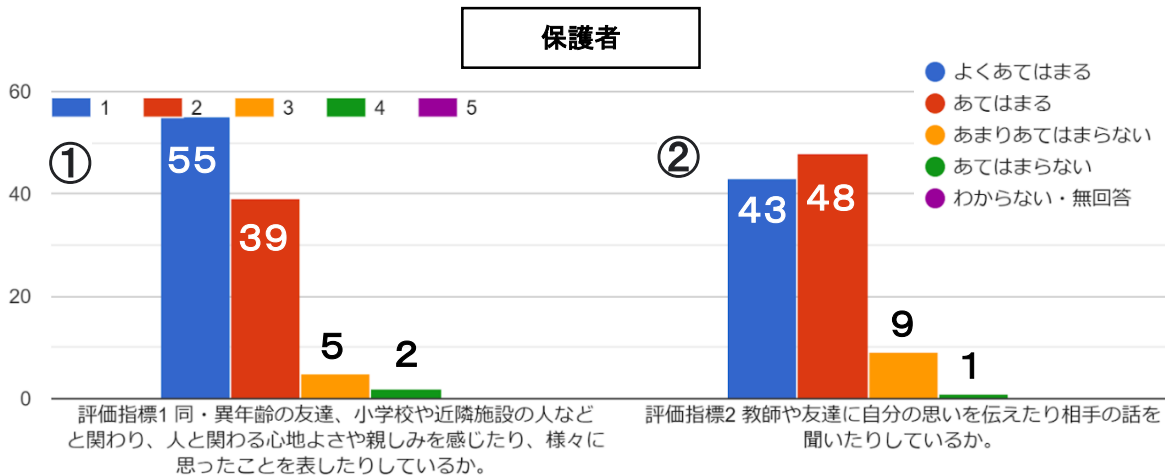
また、運動会の内容を工夫したり、講師を招聘した運動遊びを計画的に実施したりするなかで、教員の指導の幅が広がり、幼児の運動遊びへの興味関心や多様な動きを引き出すことができたと考えています。

今後は、幼児が必要感をもって自分から生活に必要なことに取り組めるよう、今一度指導を見直し、工夫していく。また、幼児が運動遊びに取り組む姿を、保護者により近くで感じていただけるよう、幼稚園で楽しんだ運動遊びを家庭でも親子で楽しめるよう、内容を紹介したり、親子で運動遊びをする行事を計画したりする。

重点目標3 自他共に大切に思える幼児の育成

評価指標①同・異年齢の友達、小学校や近隣施設の人などに関わり、人と関わる心地よさや親しみを感したり、様々に思ったことを表したりしているか。

評価指標②教師や友達に自分の思いを伝えたり相手の話を聞いたりしているか。



①②ともに「1よくあてはまる」「2あてはまる」を合わせた割合が約9割を占めている。

一人一人の発達に応じて、自分の思いや考え、感じたことを表したり、友達と関わって遊びや生活を楽しんだりしていることを保護者に実感していただけたと考える。園内の同・異年齢の関わりに加えて、小学生や保育園児、高齢者施設の方やパラリンピアンなど、多様な年齢や立場の人と直接関わる体験を通して、人と関わる力を育むことができたと考える。

次年度は、一つ一つの行事の意図や内容を改めて見直すとともに、日々の生活や遊びの中で、幼児の思いを受け止めたり、友達との関わりを橋渡ししたりする援助を丁寧に行う。また、教員一人一人が、幼児理解を深め、評価指標にあるような幼児の姿を明確にイメージし、降園時や懇談会、個人面談など保護者の方と対面して直接話ができる機会を十分に生かし、幼児の育ちや関わりを保護者の方と共有できるようにしていく。

2 全体の評価について

保護者による全体評価

全ての項目で「よくあてはまる」「あてはまる」を合わせて9割近い数値となっており、16項目中11項目が昨年度より高い評価となった。幼児の姿から、生活や遊びを楽しみながら、様々な人や物に関わり、興味・関心を広げ、主体的に学んでいる、と感じていただけていると考える。保護者と幼児の成長を共有しながら、家庭とともに取り組む体制ができているものと捉えている。

一方、「あまりあてはまらない」「わからない・無回答」の回答が見られた以下の項目については、さらなる対応策を進める。

(9)「幼稚園は、幼児の年齢に応じて思いやりの心や命を大切にする心を身に付けさせている」については、重点目標1-②、3-①に関わる内容である。今一度、時期や活動内容を見直すとともに、相手を思いやる姿、愛着をもって生き物に関わる姿を丁寧に見取り、意識して保護者に伝えていけるようにしたい。

(14)「併設の小学校や近隣の保育園との連携が積極的に行われている」については、重点目標3-①に関わる内容である。学年により直接的な交流の機会がなく、活動が見えにくかったと思われる。他学年の活動を広く共有できるような工夫の必要があると考える。

(16)「保護者は幼稚園の教育活動に積極的にかかわっている」については、保護者の参画の機会を増やしてきたが、積極的に教育活動に関わりたいという思いが感じ取れる。次年度に向けて、幼稚園公開の回数を増やすとともに、親子活動や園行事に参画する機会を計画していく。

教員による全体評価

〈安全指導・管理〉〈情報提供〉〈本園の特色〉の3項目について、改善を要する評価が見られた。

〈安全指導・管理〉

避難訓練について、併設小学校と合同実施することの日程調整が難しかった。実際の災害を想定した訓練を行うことで、戸惑うことなく自らの命を守る行動を取れるよう、連携を強化して計画・実施していきたい。

〈情報提供〉

地域の方への情報発信のツールであるホームページについて、今年度内容を整理してきた。次年度は、ホームページでの情報発信の充実を図るとともに、地域の施設に出向いたり、園を開いたりする直接交流を通じた発信を増やし、地域の幼児教育のセンター的役割を果たしていく。

〈本園の特色〉

本園の特色の一つとして幼小連携を推進し、幼児・児童の交流活動、教員同士の研修を進めている。年度ごとに教員・児童・幼児は変わるが、交流活動・研修の内容は継承され積み上がっていく体制を構築する必要がある。次年度当初に幼稚園、小学校の教員が一緒に年間計画を確認し、意識を高くもって計画的に交流活動・研修を進めていくことができるようにする。

3 全体考察と今後の改善方策

上記より、今年度の評価結果について、以下のようにまとめられる。

① 幼児は主体的に遊びや生活に取り組むことができている。

重点目標に掲げた幼児教育の重要な項目について、保護者から高い評価が得られたこと、「わからない・無回答」がなかったことは成果である。様々な人や身近な自然との関わりを通して、思いやりの心や命を大切にすることを育んでいくことは、幼児教育の充実に欠かせない内容であり、これからも継続して取り組んでいく。幼児の主体的な学びの充実にために、教育内容を改善し、教員の指導力の向上に引き続き努めていく。さらに、保護者が教育活動に参画する機会を増やし、幼児の成長を共有しながら、幼稚園教育の理解推進を図っていく。

② 幼稚園が、小学校・保育園・こども園・地域・未就園児とのつながりの中核となり、地域の幼児教育のセンター的役割を担っていくことができるようにする。

併設小学校を始め、近隣の保育所・こども園等と交流を進め、連携を図ってきた。子ども同士の交流に加えて、保育・授業参観や研修の機会も充実させてきたことで、教員・保育士同士で学び合う体制ができてきている。

園内の情報発信が充実してきた一方で、地域に向けた発信は引き続きの課題である。ホームページを通して、地域にお住まいの方、未就園児や近隣の保育所・こども園など地域にも広く発信し、本園の教育への理解促進を図っていく。また、未就園児の会を年間通して様々な内容で実施することで、幼稚園が地域の遊び場の一つとして気軽に立ち寄れる場となるようにする。その中で、幼稚園教育に関心をもって幼児の学びの場であり、保護者が気軽に相談できる場であることを実感していただけるよう、内容の工夫、地域との連携を強化していく。

地域への情報発信を充実させ、園内外の様々な人との関わりを工夫し、幼児の経験の幅を広く豊かにするとともに、晴海地域の幼児教育の質の向上につなげていきたい。